

2018ハワイアンフェスティバル

ハワイになった吉良で南国気分を満喫

8月22日～25日、2018ハワイアンフェスティバルin吉良ワイキキビーチが行われました。全国から集まった約1,000人のフラ愛好家が、カラフルな衣装を身にまとい、フラを披露。誰でも自由に踊れるメレフラタイムでは、観客など大勢の人がフラを楽しみ、会場は南国ムードに包まれていました。夜には本場ハワイ・オアフ島のポリネシアン・ダンスチームによるダンスショーを開催。迫力満点のファイアーダンスなどが披露され、客席から大歓声が沸き起こっていました。



親子で稲刈り体験とおにぎらず・稲わらリースを作ろう

自分で収穫して作るから面白い

8月25日、食育事業「親子で稲刈り体験とおにぎらず・稲わらリースを作ろう」が行われました。市内の田んぼで鎌やハサミを使い、コシヒカリの収穫を体験。その後、JA西三河事務センターに移動し、今年収穫されたばかりの新米で、米の間に好きな具材を挟む「おにぎらず」を作りました。おにぎらずを切ると、色鮮やかな断面が見え、自然と笑顔に。自分で作物を収穫し、調理して食べるという体験を通し、食を大切にすることを親子で育てていました。



第70回西尾・米津の川まつり

夏の夜空を鮮やかに彩る



第70回西尾・米津の川まつりが8月15日、矢作川米津橋下流で開催されました。万灯流しには大勢の方が訪れ、戦没者や水難者の供養に手を合わせていました。

花火大会では、色とりどりの仕掛け花火やスターメインなど約3,000発が披露され、夜空に大輪の花が咲くと、詰め掛けた見物客から歓声が上がっていました。

第30回吉良花火大会

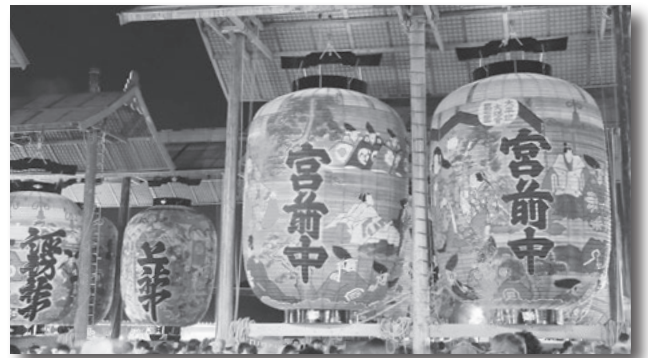
三河湾に浮かぶ大輪の花火

8月18日、第30回吉良花火大会が宮崎漁港周辺で行われました。メッセージ花火や大迫力のスターメインなど、約1,700発の花火が夜空を彩り、訪れた観客は笑顔で拍手を送っていました。



三河一色大提灯まつり

夜空に現れた巨大な時代絵巻



8月26日・27日の両日、一色町の諏訪神社で三河一色大提灯まつりが行われました。26日の朝、6組の氏子たちが最大で長さ10メートル、直径5.6メートルもある大提灯12張をつり揚げました。夜には献燈祭が執り行われ、巨大なろうそくに御神火を移し、献灯。大提灯の中につるされると、祭りの雰囲気は最高潮に。境内は夜空に浮かび上がる時代絵巻を一目見ようと集まった人々にぎわっていました。



福地南部小学校 宿泊キャンプ

親子で夏の思い出作り

福地南部小学校で8月25日、おやじの会主催の宿泊キャンプが行われました。参加したのは1年生～6年生の児童とその保護者の計67人。ダンボールベッド作りでは、ダンボールで簡単にできるベッドを製作し、災害への備えを楽しみながら学んでいました。夕食のバーベキューで、手作りしたモッツアレラチーズを焼いて食べたり、暗くなってから校舎内で肝試しを楽しんだりするなど、夏休みの思い出を親子で作ることができたようです。



いっしきGO! 近所マルシェ

すてきなお店で楽しく買い物



8月19日、子育て・多世代交流プラザで「いっしきGO! 近所マルシェ」が行われました。地域のにぎわいを創出しようと今年4月から偶数月に開催されているイベントで、手作りの作品や菓子を販売する店などが出店。来場者はお気に入りの品を見つけて購入しようと、会場を巡っていました。ステージでは、鼓笛やバンドの演奏、チアダンスなどが披露。人があふれんばかりの会場で、大人も子どもも笑顔で楽しんでいました。次回は10月14日(日)に開催されます。

ボン祭「バンブープラネット」

竹林に響きわたる楽器の音色

8月11日～19日、お盆の時期に来園してもらおうと、愛知こどもの国でボン祭が行われました。アートのワークショップなど多世代が楽しめるさまざまな催しを開催。11日には、竹林の中の演奏会「バンブープラネット」が開かれ、多くの家族連れでにぎわいました。トランペットやトライアングルなどの楽器の演奏に合わせ奏でられたのは、竹で作られた楽器「タケンバ」。参加者もリズムに合わせて竹をたたき、自然の中で演奏を楽しんでいました。



こどもチアダンス

小さなチアダンサーがダンスを披露



8月25日、保育園年中頃から小学2年生が対象の生涯学習講座「こどもチアダンス」(全8回)の最終回が室場ふれあいセンターで行われました。参加した子どもたちは、これまでに教わったダンスを音楽に合わせて復習。最後に全員で練習の成果を発表しました。見学していたお父さん、お母さんはポンポンを持って楽しそうに体を動かす子どもたちの姿に自然と笑顔がこぼれ、手拍子で応援したり、写真を撮ったりと、一緒に楽しい時間を過ごしていました。